

## SUGGEST

by hamamoto

SUGGEST by hamamoto  
**mite net!**  
みてねっと!  
Vol.48



# 兵庫県ドクターハリ



広大な地域に人口が散在し医療資源の乏しい地域にドクターヘリを導入することにより、救急医療体制を確保し、救命率の向上及び早期の社会復帰を図るとともに、県内におけるヘリコプター救急搬送体制の整備・充実を図るために設置されました。

兵庫県には『兵庫県加古川医療センター』と『公立豊岡病院』の2つの救命救急センターがあり、2機のドクターヘリが配備されていて生命に危険が及ぶような重症、重篤患者への対応を行う三次救急を担っています。

前者では平成25年から、後者は平成22年から運航が始まっており、昨年だけでも日本一の運航回数（約1700件）を記録しています。これまで、播磨地域、丹波南部、但馬地方、丹波北部など山間部が多く、病院まで遠い場合など救急車で運んでいる最中に亡くなってしまうケースがありました。例えば『兵庫県加古川医療センター』のドクターへりは加西市まで約5分でランデブーポイントに着陸し、医師と看護師が乗っているためすぐに処置を行えるのでぐっと救命率が上がります。

## 兵庫県南部ドクターヘリの運航地域



運航時間

原則として日中の有視界飛行であり、午前8:30から日没までのフライトとなります。この時間帯でも他の事案で出動中の場合や、天候不順などによりフライトできない場合があります。

着陸場所

あらかじめ設定した離着陸場所（ランデブーポイント）へ消防機関の誘導で着陸します。加古川市（10ポイント）、高砂市（7）、加西市（27）、加東市（36）、小野市（14）、三木市（40）、加古郡（5）、西脇市（19）が2015年時点ですべて指定されていますが、特例で消防機関が着陸に際して安全が確保できれば5mほどの道にも着陸するようです。

### [定義]

ドクターヘリとは、基地病院ないし準基地病院に常駐する救急医療に必要な医療機器や医薬品を搭載したヘリコプターで救急医療の専門医・看護師らが同乗して救急現場などに向かい現場などから医療機関に搬送するまでの間、傷病者に救命救急医療を行うことのできる専用のヘリコプターのことをいう。

要請

一般の方が直接要請することはできません。患者の転送を希望する医療機関や、救急要請を受けた消防本部、出動した救急隊が患者の重症度から判断して要請することになります。

費用

ドクターへりによる搬送自体には費用がかかりません。しかし、現場や機内で行った医療行為に関しては、一般的の医療保険制度に基づく医療費が発生します。

搭乘人員

運航スタッフとしては操縦士1名、整備士1名、CS(運航管理)1名の合計3名を1クルーとして医療スタッフとしては医師1名、看護師1名の合計2名で緊急要請に対応しています。患者は最大2名まで、家族は医師の判断のもと、1名まで搭乗可能です。

出動事案

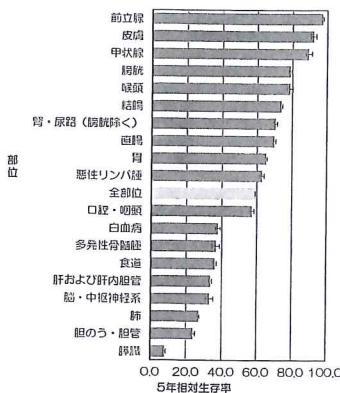
加西市でフォークリフト搭乗の男性が池に転落、リフトの下敷きになり左下腿を粉碎骨折。救急要請後、10分でドクターヘリが池の堤に着陸。レスキューが1時間後に引き上げ加古川医療センターに搬送。3か月後にはゴルフが出来るまでに回復。

生保トピック

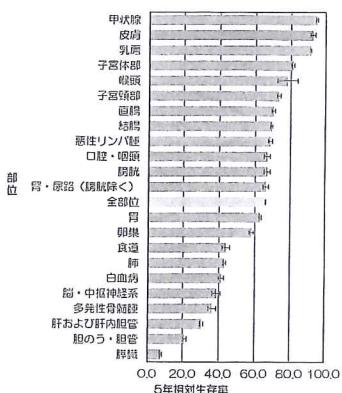
## 「がんの生存率（がんと診断されてからの生存率）」について

国立がん研究センターは本年7月21日、がんの治癒の目安である5年生存率の全国推計値を公表しました。全部位の5年相対生存率(2006-2008年診断症例)は、男性59.1%、女性66.0%男女計62.1%でした。

部位別では、男性では5年相対生存率が比較的高い群(70-100%)には、前立腺、皮膚、甲状腺、膀胱、喉頭、結腸、腎・尿路(膀胱除く)、低い群(0-39%)には、白血病、多発性骨髄腫、食道、肝および肝内胆管、脳・中枢神経系、肺、胆のう・胆管、脾臓が含まれました。女性では高い群(70-100%)は甲状腺、皮膚、乳房、子宮体部、喉頭、子宮頸部、直腸、低い群(0-39%)は、脳・中枢神経系、多発性骨髄腫、肝および肝内胆管、胆のう・胆管、脾臓でした。



男性



女性

※相対生存率とはがんと診断された場合に、治癒でどのくらいの命を救えるかを示す指標。

どの部位でも、一様に進行度が高くなるにつれ、生存率が低下していく、また、多くの部位では早期で診断された場合には生存率が良好であることが分かりました。(※資料:国立がん研究センター)

がんは、初期のうちは自覚症状がほとんどないため、発見が遅れてしまいかがちです。定期的にがん検診を受け、早期発見・早期治療につなげることが大切です。

損保トピック

## 自動ブレーキで事故激減!? 車の安全性能事情



近年、自動車の安全装置が著しい発達を遂げています。交通事故総合分析センターによると2010~2014年にかけて日本で発生した交通事故のうち、自動ブレーキを搭載した自動車と、自動ブレーキを搭載していない同じ車種の車同士を比較したところ、約6割の事故軽減効果が確認されました。追突だけを見ると8割以上も軽減されているとのことです。

ただし、自動ブレーキは車によって性能が大きく異なるようです。あるメーカーの車種ではカメラを改良し、一般的な物と比べ視野角と視認距離を約4割広げることで認識性能の向上が可能になりました。さらにカラー映像化によってブレーキランプの認識も実現しています。常に前方を監視し、自動車だけでなく白線やガードレール、歩行者や人までも認識できるということです。一方、軽自動車に搭載されている自動ブレーキは簡易型が主流で、30km/h以下で走行中の車両に対してだけ機能が働くようです。こうした性能の向上を受け、損害保険各社は自動ブレーキなど先進的な安全装置を搭載する「先進安全自動車」について今後任意保険料を割引する動きがあります。(割引の適用の有無、割引率は各損保会社により異なります。)

事故をする確率も減少が見込めますので、車の購入を検討される際は一度自動ブレーキ付きの車両も考えられてはいかがでしょうか。

このように車の安全性能が徐々にアップしてきており、それによって事故の減少は見込めるようになってきました。しかし、事故が全くなくなるわけではありませんので安全運転を心掛けるのはもちろんのこと自動車保険にきちんと加入しておくことは言うまでもなく大切です。



見直してください  
あなたの暮らしの保障  
浜本保険株式会社

■本

社／兵庫県加西市北条町横尾313-1 A・NOVA SANWA BLDG 1F  
TEL.0790(42)1223㈹ FAX.0790(43)1205

■高砂営業部

TEL.079(442)3515㈹ FAX.079(442)3054

■イオン加古川店

TEL.079(425)6500㈹ ㈹0120(920)903



■本社／北条営業部



■高砂営業部



■アフラックサービスショップ